

当館の概要説明（ガイドのみなさま用）

小説『坂の上の雲』は昭和 43 年より 4 年半、1296 回にわたり産経新聞に連載された司馬遼太郎氏の作品です。松山出身の軍人秋山好古・真之兄弟と俳句の革新者として知られる正岡子規の 3 人の生き方や、近代国家として成長していく明治日本の姿を描いています。明治という激動の時代を青雲の志と共に歩んだ若者たちの青春群像は、現代を生きる私たちに多くのメッセージを伝えています。NHKのスペシャルドラマにもなり、平成 21 年から 3 年間に渡って放送されました。

松山市では以前より「『坂の上の雲』のまちづくり」に取り組んでいます。これは、3 人の主人公たちの生き方に学びながら、主人公ゆかりの史跡や松山固有の地域資源を再発見・再活用しようとするものであり、街全体を屋根のない博物館＝フィールドミュージアムに見立て、市内各地で行政、市民が一体となってまちづくりに取り組んでいます。坂の上の雲ミュージアムは、その中核施設としての役割もになっています。

建物の設計は世界的に有名な安藤忠雄氏。建設に際し、城山と市街地の境目であり、松山城、萬翠荘の立地を考慮した周辺環境との調和、そして『坂の上の雲』を目指して坂を上っていった主人公たちに思いを馳せ設計されたものです。各階は一本のスロープで結ばれ、建物全体は空に向かって 5 度傾いた逆三角錐の建物です。

ミュージアムでは毎年展示物を入れ替えながら、テーマを新たにした企画展を行っております。詳細は、企画展の特設ページをご覧ください。[→特設ページはこちら。](#)

ミュージアムの近くには、大正 11 年に建てられた久松定謨の別邸「萬翠荘」、秋山兄弟の生家を復元した「秋山兄弟生誕地」、そして「松山城」があります。市内には重要文化財「道後温泉本館」「子規記念博物館」「子規堂」をはじめ主人公ゆかりの施設もございます。坂の上の雲ミュージアムを中心に広がる「『坂の上の雲』のまち松山」をどうぞごゆっくりお楽しみください。